兵庫県文化財調査報告　第410冊

加 東 市

河 高 ・ 溝 ノ 越 遺 跡

道路等活力基盤（国道372号野村河高バイパス）
整備事業に伴う発掘調査報告書

2011（平成23）年3月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

兵庫県文化財調査報告　第410冊

加 東 市

河 高 ・ 溝 ノ 越 遺 跡

道路等活力基盤（国道372号野村河高バイパス）
整備事業に伴う発掘調査報告書

2011（平成23）年3月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

例　　言

1　本書は、兵庫県加東市河高に所在する、河高・溝ノ越遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　道路等活力基盤（国道372号野村河高バイパス）整備事業に関する橋脚建設予定箇所に関して、兵庫県北播磨県民局長（加東土木事務所道路整備課）の依頼を受け、平成21年度に、兵庫県立考古博物館が発掘調査を実施し、平成22年度には出土品整理作業を実施した。

3　本書の編集・執筆は同館職員の山本誠が行い、非常勤嘱託職員森園悦子の協力を得た。

4　図版の一部（図版２）は、兵庫県文化財調査報告第396冊『貝原ナマズ遺跡・南塩田遺跡』（上田健太郎編集）で作成したものを再加工して掲載した。

5　本書で使用した引用文献・参考文献は、各章の文末に掲載した。

6　遺物写真撮影にあたっては、タニグチフォト（株）と委託契約を交わし、兵庫県立考古博物館において実施した。

7　本書で使用した方位は磁北であり、水準は東京湾平均水準（T.P.）を使用した。

8　調査・整理にあたり、加東市教育委員会社会教育課森下大輔氏のご指導・ご教示を得た。記して感謝申し上げます。

目　　次

１章　遺跡を取り巻く環境 …… 1

２章　調査に至る経過と経緯 …… 2

３章　発掘調査（確認調査）の方法 …… 2

４章　調査の成果 …… 3
　１節　遺構
　２節　遺物

５章　まとめ …… 3

図　版　目　次

図版１　周辺の遺跡
図版２　国道372号野村河高バイパス整備関連の遺跡
図版３　遺跡の位置
図版４　遺構平面図・断面図
図版５　古墳時代の遺物１
図版６　古墳時代の遺物２
図版７　古墳時代の遺物３
図版８　古墳時代の遺物４
図版９　弥生時代の遺物１
図版10　弥生時代の遺物２

表　目　次

表１　遺物観察表１ …… 5
表２　遺物観察表２ …… 6

写真図版目次

写真図版１　調査区遠景（北東から）
調査区近景（南西から）
写真図版２　確認調査①：調査状況
確認調査①：断面精査後
写真図版３　確認調査②重機掘削終了時（北東から）
確認調査②住居跡：SH01検出（北西から）
写真図版４　確認調査②住居跡：SH01検出状況（東から）
確認調査②調査区西壁断面
写真図版５　確認調査②住居跡：SH01埋土断面：ＡＢライン西側（１区）
確認調査②住居跡：SH01埋土断面：ＡＢライン東側（４区）
写真図版６　確認調査②住居跡：SH01埋土断面：ＣＤライン南側（３区）
確認調査②住居跡：SH01埋土断面：ＣＤライン北側（２区）
写真図版７　確認調査②住居跡：SH01完掘（南西から）
確認調査②住居跡：SH01完掘（西から）
写真図版８　確認調査②住居跡：SH01完掘（北から）
古墳時代の土器
写真図版９　古墳時代の遺物１
写真図版10　古墳時代の遺物２
写真図版11　古墳時代の遺物３
写真図版12　古墳時代の遺物４
写真図版13　古墳時代の遺物５
写真図版14　古墳時代の遺物６
写真図版15　古墳時代の遺物７
写真図版16　古墳時代の遺物８
写真図版17　古墳時代の遺物９
写真図版18　古墳時代の遺物10
写真図版19　弥生時代の遺物１
写真図版20　弥生時代の遺物２
写真図版21　弥生時代の遺物３
写真図版22　弥生時代の遺物４
写真図版23　弥生時代の遺物５
写真図版24　弥生時代の遺物６

１章　遺跡を取り巻く環境（図版１）

地理的環境

河高・溝ノ越遺跡は、加古川河口から約20㎞遡った中流域に開けた加東市に位置し、現在の標高は約40mである。また、この遺跡が含まれる河高地区の西側には青野ヶ原台地が広がり、東側には加古川本流が北から南に向かってゆったりと流れている。現在の集落は南北方向の自然堤防上に立地し、その西側には後背湿地が形成されている。この後背湿地に向かって青野ヶ原台地を開析した土砂が流れ込み、数カ所に小さな扇状地を形成している。（1997　加東郡教育委員会）

歴史的環境

旧石器時代・縄文時代

青野ヶ原台地には、ナイフ形石器・有茎尖頭器を出土する鶴池遺跡（190032：遺跡番号『兵庫県遺跡地図』平成16年３月発行　以下同じ）が存在する。河高･溝ノ越遺跡（240174）､河高･平田遺跡（240010）、河高・前田遺跡（240177）からは、縄文時代後期に属する土器・石器が出土している。

弥生時代

弥生時代前期の遺物を出土するのは、樋詰遺跡（240005）、河高・上ノ池遺跡（240012）、河高・平田遺跡、河高・前田遺跡で、縄文時代から引き続いて集落が形成されている。

中期になると穂積・高町遺跡（240011）、西垂水・観音寺遺跡（230013）、出水・前畑ヶ遺跡（230004）など、遺跡が広く拡散して存在する傾向にある。

後期には､家原･堂ノ元遺跡（230003）には環濠が認められる他､西垂水･東下り遺跡（230012）､貝原･町田遺跡（230010）、福吉・新池遺跡（230014）、出水・神田遺跡（230094）など、集落が平野部に形成される。

古墳時代

集落遺跡の分布は、弥生時代から引き続いている。特に河高・上ノ池遺跡（240012）では、一辺７ｍの方形竪穴住居跡（古墳時代中期）から、兵庫県指定文化財の祭祀土製品（人形・鏡形・短甲形・勾玉形土製品ほか）が出土している。（1997　加東郡教育委員会、2003　兵庫県教育委員会）

古墳としては、樋詰古墳（240015）、平尾古墳（240033）、タタラ山古墳（240034）が青野ヶ原台地・嬉野台地縁辺部に築かれる。10～20mの円墳11基からなる黒石山古墳群（240022～240032）は発掘調査の結果、５世紀後半～６世紀末頃にかけて随時築かれていることが明らかとなった。（2005　加東郡教育委員会）

引用・参考文献

1997　加東郡教育委員会『河高・上ノ池遺跡』
2005　加東郡教育委員会『黒石山古墳群確認調査』
2003　兵庫県教育委員会『平成14年度指定　兵庫県文化財調査報告書』

２章　調査に至る経過と経緯

兵庫県北播磨県民（加東土木事務所）では、管内の地域間連絡道路を優先的に整備するとともに、関係市町の中心部を連絡する道路等、市町合併を支援する道路を計画的に重点整備している。国道372号野村河高バイパス整備もその一環である（図版２）。

兵庫県北播磨県民局（加東土木事務所）は、上記開発事業の１つとして、橋脚建設（１基）を計画した（図版２）。平成21年11月６日付け 北播（加土）第1574号に基づき、兵庫県立考古博物館は兵庫県北播磨県民局の依頼を受け、今回の発掘調査（確認調査）を実施した（図版３）。

なお、今回の確認調査範囲と橋脚建設範囲（工事掘削範囲）は一致したため、これ以降の調査（本発掘調査）は不要とする扱いとなった。

確認調査①②（遺跡調査番号2009228）
　平成21年11月10日・24日～27日
　　兵庫県立考古博物館
　　埋蔵文化財調査部企画調整班　山本誠・小川弦太
出土品整理作業
　平成22年９月13日～平成23年３月31日
　　兵庫県立考古博物館
　　埋蔵文化財調査部整理保存課
　　事務担当：村上泰樹・篠宮正・宮嶋典美
　　作業担当：岡田章一・山本誠・岡本一秀
　　家光和子・小林陽子
　　眞子ふさ恵・三好綾子・奥野政子・藤尾裕子
　　森園悦子・古谷章子・松本嘉子
　　長濱重美・前田恵利子・浜脇多規子・桂昭子
　　河上智晴・有田遥香・坂東知奈・谷脇里奈

３章　発掘調査（確認調査）の方法

平成21年11月10日（確認調査①）

調査対象地について、２×２ｍの調査区を１カ所設定し、機械により掘削した後、断面整形をおこない、遺構･遺物の有無を調査し、埋蔵文化財の存否を確認した。その結果、地表下約1.3mに地山面を検出し、その上部には約20㎝の遺物（土師器片）包含層を認めたため、調査範囲を拡大することとなった。

平成21年11月24日～27日（確認調査②）

調査対象範囲を東西11m、南北９ｍに拡大した。前回の調査で確認した遺物包含層直上まで、重機によ

る掘削を行い、その後、人力により遺構・遺物の検出を実施した。

その結果、古墳時代前期に属する方形竪穴住居跡を１棟検出した。なお、検出した遺物は20箱（28リットル入りコンテナ）である。

４章　調査の成果

１節　遺構（図版４）

地表下約1.3mの深さで、１辺約5.5mの方形竪穴住居跡（SH01）を検出した。地山（遺構検出）面からの堀込みの深さは約40cmである。直径約30cm・深さ約30cmの柱穴跡を３カ所、直径約60cm・深さ約10cmの土坑を１カ所検出した。

２節　遺物（図版５～10　表１　写真図版８～24）

A　古墳時代：竪穴住居跡（SH01）に伴うもの（図版５～８　表１　写真図版９～18）

１～５は二重口縁壺である。５点図化した。うち２点は高さ40cmをこえるものである。６～21は直口壺である。16点図化した。器高が15cm程度・10cm程度・８cm程度とおおきく３つに分類できる。なお、８・14・15には焼成後の穿孔を認めた。22～25はてづくね土器である。４点図化した。26～38は甕である。13点図化した。器高が復元出来るものの中でもっとも大きいものは約36cmで、その他は20～25cm程度のものが大半を占める。39～46は高坏である。８点図化した。器高が15cm程度と12cm程度に分かれる。47～49は表面に特徴的な格子状タタキが認められ、その他の土器の胎土と異なることから韓式土器（甕）の破片と判断した。50は鉄製の刀子である。

B　弥生時代：竪穴住居跡に伴わないもの（図版９・10　表２　写真図版19～24）

ほとんどのものは、弥生時代中期（Ⅲ・Ⅳ様式）に属する。破片の接合を試みたが、完形近くに復元できるものはなく、いくつかの破片は転磨を受けている。このことからもこの住居跡に流入したものと言える。

51～58は広口壺の口縁部・頸部である。59は無頸壺の口縁である。60～72も壺の胴部付近の破片である。73・74は鉢の可能性が高いが、詳細は不明である。75～80は甕である。81・82は水平口縁の高坏で、83～86は鉢形の高坏（または鉢）である。87は高坏脚部である。88は高坏坏部の円盤充填部を紡錘車として再利用したものである。89～91・93も弥生時代に属する土器であるが詳細は不明である。なお、92は縄文時代に属する可能性もある。94は砂岩製の石包丁である。

５章　まとめ

発掘調査対象範囲は、約100㎡であったが、方形の古墳時代（前期）の竪穴住居跡を約２/３検することが出来た。出土遺物は28リットル入りコンテナで20箱分出土した。この出土遺物を検討した結果、古墳時代に属し竪穴住居跡に伴うものと、弥生時代に属し洪水等によりこの竪穴住居跡に流入したものに分離することが可能となった。

特に竪穴住居跡の床面から韓式土器（甕）が出土しており、この住居跡およびそれに伴う出土遺物は須恵器出現前後の時期（４世紀末～５世紀初）に位置づけられるものと評価出来る。

報　告　書　抄　録

ふりがな	こうたか・みぞのこしいせき
書名	河高・溝ノ越遺跡
副書名	道路等活力基盤(国道372号野村河高バイパス)整備事業に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第410冊
編著者名	山本誠
編集機関	兵庫県立考古博物館
所在地	〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中１丁目１番１号　　TEL　079-437-5589
発行年月日	2011(平成23)年３月24日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こうたか・みぞのこしいせき 河高・溝ノ越遺跡	ひょうごけんかとうしこうたか 兵庫県加東市河高	28228	990141	34度55分06秒	135度10分09秒	確認調査 20091110 ～ 20091127	99㎡	国道372号野村河高バイパス整備に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
河高・溝ノ越遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡	韓式土器・土師器・弥生土器・金属器・石器	• 古墳時代前期の竪穴住居跡を一棟検出した。 • 須恵器出現前後の時期に属する土師器の一括資料を伴う。 • 弥生時代前期～後期の土器片も検出した。

表１　遺物観察表１

報告№	図版№	写真図版№	地　区	遺構名	種　別	器　種		法　量（cm）				残　存			調　整（内）	調　整（外）
								口径	器高	底径	腹径	口縁	底	他		
1	図版５	写真図版９	1区、1区中心	SH01	土師器	壺	二重口縁	(18.8)	(51.5)	－	(42.1)	1/3	完存	体部2/3	口縁部ヨコナデ、体部上方はヨコヘラケズリ、下方はタテヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部上方はヨコハケ、下方はタテハケ、黒斑あり
2	図版５	写真図版９	1区、1区中心	SH01	土師器	壺	二重口縁	21.85	44.2	－	(39.0)	3/4	部分的に欠	体部約1/3	口縁部ヨコナデ？、体部上方はユビ押え、下方は板ナデ	口縁部ヨコナデ？、体部不明板ナデ？
3	図版６	写真図版９	2区	SH01	土師器	壺	二重口縁	(16.7)	(23.5)	－	(29.05)	1/3		体部1/3	口縁部ヨコナデ、体部不明	口縁部ヨコナデ、体部不明ナデ？
4	図版６	写真図版９	1区	SH01	土師器	壺	二重口縁	(16.4)	(11.2)	－	－	1/4		体部若干	口縁部不明ヨコナデ？、体部ユビ押え後板ナデ	口縁部ヨコナデ、体部タテハケ
5	図版６	写真図版９	1区	SH01	土師器	壺	二重口縁	(18.2)	(4.8)	－	－	1/2弱			口縁部ヨコハケ後ヨコナデ	口縁部ヨコハケ後ヨコナデ
6	図版６	写真図版９	2区（畦内）	SH01	土師器	壺	直口	(10.05)	16.1	－	14.7	2/3		体部2/3	口縁部ヨコナデ、体部不明ナデ？	口縁部ヨコナデ、体部不明ナデ？、黒斑あり
7	図版６	写真図版10	1区中心	SH01	土師器	壺	直口	11.8	(14.6)	－	(17.3)	3/4		体部約1/2	口縁部ヨコナデ、体部不明	口縁部ヨコナデ、体部タテハケ
8	図版６	写真図版10	2区（畦内）	SH01	土師器	壺	直口	11.5	14.4	－	13.7			ほぼ完形	口縁部ヨコナデ、体部不明	口縁部ヨコナデ、体部不明、黒斑あり、孔あり
9	図版６	写真図版10	3区	SH01	土師器	壺	直口	－	14.1	－	14.4			体部3/4	口縁部ヨコナデ、体部板ナデ	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、黒斑あり
10	図版６	写真図版10	1区、4区(畦内)	SH01	土師器	壺	直口	(9.8)	12.1	－	12.1	3/4		体部3/4	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、黒斑あり
11	図版６	写真図版10	1区	SH01	土師器	壺	直口	(7.9)	(10.25)	－	(11.3)	1/2		体部1/2	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、スス？付着	口縁部ヨコナデ、体部ハケ？、黒斑あり
12	図版６	写真図版11	4区	SH01	土師器	壺	直口	(7.8)	9.3	－	9.5	1/9		体部2/3	不明	口縁部ヨコナデ？、体部不明
13	図版６	写真図版11	2区	SH01	土師器	壺	直口	(8.8)	(7.1)	－	(9.7)	1/2		体部3/8	口縁部ユビ押え後ヨコナデ、体部ユビ押え後ハケ	口縁部ユビ押え後ヨコナデ、体部ナデ、黒斑あり
14	図版６	写真図版11	3区	SH01	土師器	壺	直口	(7.45)	8.4	－	8.4	1/2		体部7/8	口縁部ヨコナデ、体部ハケ	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、黒斑あり
15	図版６	写真図版11	3区	SH01	土師器	壺	直口	(7.3)	8.7	－	8.6	1/3		体部完存	口縁部ヨコナデ、体部ハケ？	口縁部ヨコナデ、体部板ナデ？、焼成後の孔あり
16	図版６	写真図版12	2区	SH01	土師器	壺	直口	(7.7)	(7.35)	－	8.65	1/3		体部2/3	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	口縁部ヨコナデ、体部上方ナデ、底部ヨコヘラケズリ
17	図版６	写真図版12	1区、4区	SH01	土師器	壺	直口	(6.75)	8.3	－	7.65	1/3		体部2/3	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	口縁部ヨコナデ、体部タテハケ？
18	図版６	写真図版12	4区	SH01	土師器	壺	直口	－	(6.65)	－	9.45	－		体～底2/3	体部ナデ、黒斑あり	不明
19	図版６	写真図版12	2区	SH01	土師器	壺	直口	8.3	7.0	－	7.5			完形	口縁部ヨコナデ、体部ユビ押え後ナデ	口縁部ヨコナデ、体部ユビ押え後ナデ、黒斑あり
20	図版６	写真図版12	3区	SH01	土師器	壺	直口	(8.8)	6.1	－	(8.2)	1/2		体部2/3	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	口縁部ヨコナデ、体部ナデ
21	図版６	写真図版12	2区	SH01	土師器	壺	直口	(5.15)	5.7	－	6.7			ほぼ完形	口縁部ヨコナデ、体部ユビ押え後ハケ	口縁部ヨコナデ、体部ユビ押え後ナデ
22	図版６	写真図版13	3区（畦内）	SH01	土師器	てづくね土器	ミニチュア	(5.15)	4.0	－	－	若干		体部1/2	ユビ押え後ナデ	ユビ押え後ナデ、黒斑あり
23	図版６	写真図版13	2区（畦内）	SH01	土師器	てづくね土器	ミニチュア	4.0	2.95	－	－			ほぼ完形	ユビ押え後ナデ	ユビ押え後ナデ、黒斑あり
24	図版６	写真図版13	2区	SH01	土師器	てづくね土器	ミニチュア	(4.15)	3.1	－	－			ほぼ完形	ユビナデ	ユビ押え
25	図版６	写真図版13	2区（畦内）	SH01	土師器	てづくね土器	ミニチュア	(5.0)	2.6	－	－			口～底3/4	ユビ押え後ハケ	ユビ押え後ナデ、黒斑あり
26	図版７	写真図版13	4区	SH01	土師器	甕		16.3	36.3	－	32.05	完存	完存	体部3/4	口縁部ヨコナデ、体部上方はヨコヘラケズリ、下方は多方向ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部粗いタテハケ後ナデ？、黒斑あり
27	図版７	写真図版13	1区、4区(畦内)	SH01	土師器	甕		15.2	(10.6)	－	－	3/4		体部若干	口縁部ヨコナデ、体部ヨコ板ナデ	口縁部ヨコナデ、体部タテ板ナデ
28	図版７	写真図版14	―	SH01	土師器	甕		14.9	(10.25)	－	－	1/2強		体部若干	口縁部ヨコナデ、体部ヨコ板ナデ	口縁部ヨコナデ、体部多方向のハケ
29	図版７	写真図版14	4区	SH01	土師器	甕		(13.9)	(11.3)	－	(22.4)	3/4		体部1/4	口縁部ヨコナデ、体部ヨコヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部タテハケ後強いナデ
30	図版７	写真図版14	1区	SH01	土師器	甕		15.9	(8.0)	－	－	3/4			口縁部ヨコナデ、ヨコハケ、体部ヨコヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、タテハケ後ヨコナデ、体部タテハケ
31	図版７	写真図版14	1区中心	SH01	土師器	甕		(13.4)	(7.55)	－	－			口～肩1/3	口縁部ヨコハケ、体部ナデ	口縁部ヨコナデ、体部タタキ後ナデ
32	図版７	写真図版14	2区（畦内）	SH01	土師器	甕		15.9	26.6	－	22.4	1/2強		体部ところどころ欠	口縁部不明、体部上方はヨコ板ナデ、下方はハケ	口縁部不明、体部板ナデ
33	図版７	写真図版14	1区中心	SH01	土師器	甕		12.8	(23.3)	－	21.1	3/4		体部1/2弱	口縁部ヨコナデ？、ハケ、体部上方は強いヨコナデ、下方は板ナデ	口縁部ヨコナデ？、体部上方はハケ、下方は板ナデ？
34	図版７	写真図版15	3区	SH01	土師器	甕		12.9	(20.1)	－	(21.7)	3/4		体部1/3	口縁部ヨコナデ？体部ヨコヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ナデ
35	図版７	写真図版15	3区	SH01	土師器	甕		13.4	20.0	－	19.9	3/4		ほぼ完	口縁部不明、体部下から上方向に板ナデ	口縁部不明、体部にタテハケ、スス付着
36	図版８	写真図版15	2区	SH01	土師器	甕		(13.4)	(11.3)	－	－	3/4		体部1/4	口縁部ヨコナデ、体部不明ヘラケズリ？	口縁部ヨコナデ、体部タテハケ、黒斑あり
37	図版８	写真図版15	3区	SH01	土師器	甕		(12.0)	16.0	－	15.2	2/3		体部完存	口縁部ヨコナデ、体部ヨコヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部タテヘラミガキ、黒斑あり
38	図版８	写真図版15	3区	SH01	土師器	甕		9.2	(14.4)	－	(16.1)	一部欠		体部1/2	口縁部～体部上部ヨコナデ、体部下部板ナデ	口縁部～体部上部ヨコナデ、体部下部板ナデ？
39	図版８	写真図版16	1区、1区中心	SH01	土師器	高坏	外反口縁	(21.9)	15.1	13.3	－	1/4		脚部完存	口縁部ヨコナデ、坏部に仕上げナデ、脚部ヘラケズリ、下方にヨコハケ	口縁部板ナデ？ヨコナデ？、坏部タテヘラミガキ、脚部にヨコハケ、下方にタテハケ
40	図版８	写真図版16	2区	SH01	土師器	高坏	有稜	(14.9)	11.4	(9.65)	－	－		口～底2/3	坏部ヨコハケ後ナデ？、脚部ヘラケズリ、下方はナデ？	口縁部ヨコナデ、坏部ハケ、脚部タテハケ？
41	図版８	写真図版16	1区、1区中心	SH01	土師器	高坏	有稜	－	(12.1)	(10.6)	－			杯：1/2 脚：完存	坏部ヨコヘラミガキ、脚部板ナデ	坏部ヨコナデ、脚部タテヘラミガキ、下方のみヨコナデ
42	図版８	写真図版16	2区	SH01	土師器	高坏	有稜	(19.15)	16.4	(11.6)	－	1/3強	1/2弱		坏部ヨコハケ、脚部にヨコヘラケズリ、下方にヨコナデ	口縁部にヨコナデ、坏部にタテハケ、脚部にタタキ後ハケ？下方にヨコナデ、黒斑あり
43	図版８	写真図版17	1区	SH01	土師器	高坏	有稜	(16.2)	(5.7)	－	－	1/6			口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、坏部ナデ？
44	図版８	写真図版16	1区	SH01	土師器	高坏	有稜	14.4	(3.95)	－	－			杯部ほぼ完存	不明	不明、黒斑あり
45	図版８	写真図版17	―	SH01	土師器	高坏	椀形	－	(4.9)	－	－			脚部のみ	坏部ナデ、脚部ナデ	坏部ナデ？、脚部ヨコナデ？
46	図版８	写真図版16	1区、1区中心	SH01	土師器	高坏	脚部	－	(7.7)	12.35	－			脚部のみ	脚部ヘラケズリ、下方のみヨコナデ	脚部ヨコハケ後タテハケ、下方のみヨコナデ
47	図版８	写真図版18	2区	SH01	韓式土器	甕		－	(3.7)	－	－			肩部の破片	不明	頸部ヨコナデ、体部タタキ、黒斑あり
48	図版８	写真図版18	2区	SH01	韓式土器	甕		－	(3.6)	－	－			肩部の破片	不明	頸部ヨコナデ、体部タタキ
49	図版８	写真図版18	2区、4区	SH01	韓式土器	甕		－	(5.3)	－	－			頸部1/9体部破片	頸部～体部ナデ？	頸部にヨコナデ、体部格子目タタキ
50	図版８	写真図版17	1区	SH01	鉄器	刀子		長さ (16.0)	幅 1.3	厚み 0.55				端部欠損		

表２　遺物観察表２

報告№	図版№	写真図版№	地　区	遺構名	種　別	器　種		法　量（cm）				残　存			調　整（内）	調　整（外）
								口径	器高	底径	腹径	口縁	底	他		
51	図版９	写真図版19	2区（畦内）	SH01	弥生土器	壺	広口	(30.2)	(4.45)	－	－	1/9			口縁部ヨコヘラミガキ	端面に斜格子文、頸部不明
52	図版９	写真図版19	1区、1区中心	SH01	弥生土器	壺	広口	(20.8)	(4.1)	－	－	1/6			口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、端面に凹線＋浮文、頸部不明
53	図版９	写真図版19	4区	SH01	弥生土器	壺	広口	(24.1)	(5.9)	－	－	1/9			口縁部ヨコナデ	口縁部タテハケ後ヨコナデ、頸部に指頭圧痕文突帯
54	図版９	写真図版19	2区	SH01	弥生土器	壺	広口	(27.0)	(3.0)	－	－	1/12			口縁部不明、上部に突帯文、孔あり	口縁部不明、端部不明、タテハケ
55	図版９	写真図版19	1区、1区中心	SH01	弥生土器	壺	広口	－	(8.9)	－	－			頸部1/9強	頸部タテハケ	頸部にタテハケ、指頭圧痕文突帯
56	図版９	写真図版19	1区	SH01	弥生土器	壺	広口	－	(11.7)	－	－			頸部のみ	不明	頸部に突帯文
57	図版９	写真図版19	2区（畦内）	SH01	弥生土器	壺	広口	－	(6.95)	－	－			頸部1/6	ナデ？	上部ヨコナデ、頸部凹線
58	図版９	写真図版19	3区（畦内）	SH01	弥生土器	壺	広口	－	(4.7)	－	－			頸部破片	ナデ	頸部に突帯文
59	図版９	写真図版20	4区	SH01	弥生土器	壺	無頸	(15.5)	(4.55)	－	－	1/6弱			口縁部ヨコナデ、体部不明	口縁部ヨコナデ、突帯文、体部不明
60	図版９	写真図版20	1区	SH01	弥生土器	壺	破片	－	(6.4)	－	－			体部破片	不明	体部に直線文＋波状文＋浮文＋斜格子文
61	図版９	写真図版20	4区	SH01	弥生土器	壺	破片	－	(3.5)	－	－			体部破片	体部ナデ？	体部に斜格子文＋直線文＋竹管文
62	図版９	写真図版20	3区（畦内）	SH01	弥生土器	壺	破片	－	(3.75)	－	－			体部破片	不明	体部にハケ後直線文＋竹管文
63	図版９	写真図版20	2区	SH01	弥生土器	壺	破片	－	(4.0)	－	－			体部の破片	不明	体部に波状文＋浮文
64	図版９	写真図版20	1区	SH01	弥生土器	壺	破片	－	(3.35)	－	－			体部の破片	不明	体部にタテハケ後直線文＋竹管文
65	図版９	写真図版20		SH01	弥生土器	壺	破片	－	(3.7)	－	－			体部破片	不明	体部に直線文＋斜格子文＋刺突文？
66	図版９	写真図版20	1区	SH01	弥生土器	壺	破片	－	(4.1)	－	－			体部破片	不明	体部にタテハケ後波状文
67		写真図版21	4区	SH01	弥生土器	壺	破片	－	－	－	－					
68		写真図版21	1区	SH01	弥生土器	壺	破片	－	－	－	－					
69		写真図版21	4区	SH01	弥生土器	壺	破片	－	－	－	－					
70		写真図版21	2区（畦内）	SH01	弥生土器	壺	破片	－	－	－	－					
71		写真図版21	4区	SH01	弥生土器	壺	破片	－	－	－	－					
72		写真図版21	4区	SH01	弥生土器	壺	破片	－	－	－	－					
73		写真図版21	4区	SH01	弥生土器	不明	鉢？	－	－	－	－	破片のみ				
74		写真図版21	1区	SH01	弥生土器	不明	鉢？	－	－	－	－			体部破片		
75	図版10	写真図版22	4区	SH01	弥生土器	甕		(39.8)	(7.7)	－	－	1/18			口縁部ヨコハケ後ナデ、体部上方はヨコハケ、下方はタテハケ	口縁部ヨコナデ、端部は刻み目、頸部指圧痕文突帯、体部タテハケ
76	図版10	写真図版22	2区	SH01	弥生土器	甕		－	(2.75)	－	－	破片			不明	不明
77	図版10	写真図版22	2区	SH01	弥生土器	甕		(31.5)	(6.3)	－	－	1/9			口縁部ヨコナデ、体部ナデ？	口縁部ヨコナデ、体部タテハケ
78	図版10	写真図版22	2区（畦内）	SH01	弥生土器	甕		(13.75)	(3.85)	－	－	1/9			口縁部ヨコナデ、体部タテハケ	口縁部ヨコナデ、体部タテハケ後ナデ？
79	図版10	写真図版22	1区	SH01	弥生土器	甕		(27.0)	(4.9)	－	－	1/9			口縁部ヨコナデ、体部不明	口縁部ヨコナデ、体部ハケ？
80	図版10	写真図版22	2区	SH01	弥生土器	甕		(14.0)	(4.3)	－	－	1/6弱			口縁部ヨコナデ、体部不明	口縁部ヨコナデ、体部タタキ
81	図版10	写真図版23	4区	SH01	弥生土器	高坏	水平口縁	(19.9)	(4.5)	－	－	1/6			口縁部ヨコナデ、坏部タテヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、坏部不明
82	図版10	写真図版23	1区	SH01	弥生土器	高坏	水平口縁	(15.5)	(2.3)	－	－	破片のみ			口縁部ヨコナデ？、坏部不明	口縁部ヨコナデ、端部凹線、坏部不明
83	図版10	写真図版23	4区	SH01	弥生土器	高坏（又は椀）	椀形	(23.9)	(4.95)	－	－	1/12			口縁部ヨコナデ、上端に竹管文、坏部ヨコハケ	口縁部にヨコナデ、刻み目突帯
84	図版10	写真図版23	1区	SH01	弥生土器	高坏（又は椀）	椀形	(19.9)	(3.45)	－	－	1/9弱			口縁部ヨコナデ、黒斑あり	口縁部ヨコナデ、凹線
85	図版10	写真図版23	2区	SH01	弥生土器	高坏（又は椀）	椀形	(20.6)	(3.2)	－	－	1/9			口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、凹線
86		写真図版23	1区	SH01	弥生土器	高坏（又は椀）	椀形	－	－	－	－					
87	図版10	写真図版23	1区	SH01	弥生土器	高坏	水平口縁高坏の脚部	－	(3.35)	(13.8)	－			脚部1/9	脚部ヘラケズリ	脚部不明、端部のみヨコナデ、黒斑あり
88	図版10	写真図版23	1区	SH01	弥生土器	紡錘車	高坏坏部の円盤充填部再利用	－	(1.3)	－	－		完存？		ナデ	ナデ？、孔あり
89		写真図版24	1区	SH01	弥生土器	不明		－	－	－	－					
90		写真図版24	1区	SH01	弥生土器	不明		－	－	－	－					
91		写真図版24	4区	SH01	弥生土器	不明		－	－	－	－					
92	図版10	写真図版24	4区	SH01	弥生土器又は縄文土器	不明		－	(6.0)	－	－			体部破片	不明	
93	図版10	写真図版24		SH01	弥生土器	不明		－	(5.2)	－	－			頸部1/4弱	不明	頸部に直線文、体部ハケ？
94	図版10	写真図版24	3区	SH01	石器	石包丁		長さ 4.6	幅 4.37	厚み 1.06	重量 18.1					

図　　版

周辺の遺跡

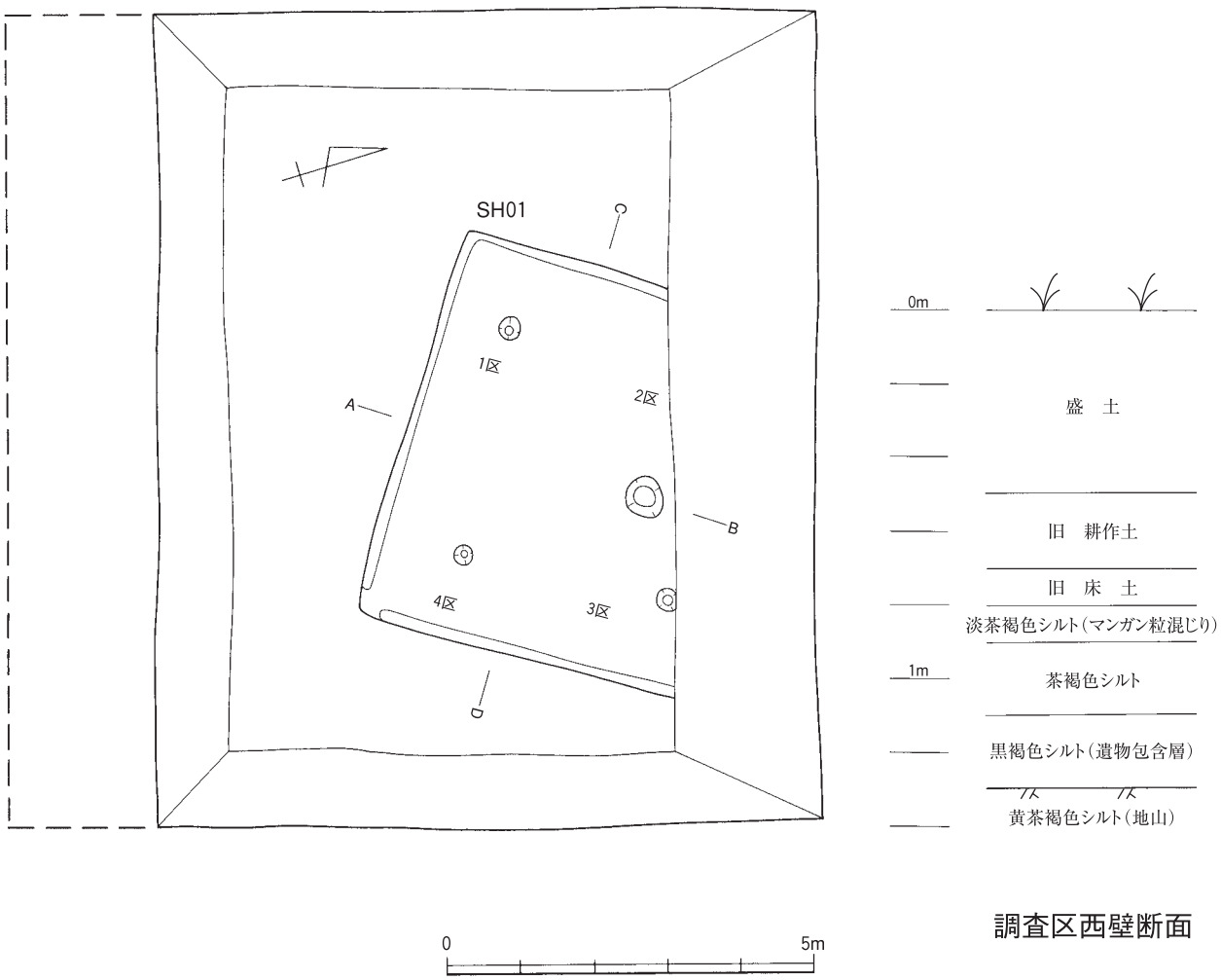
図版２

国道372号野村河高バイパス整備関連の遺跡

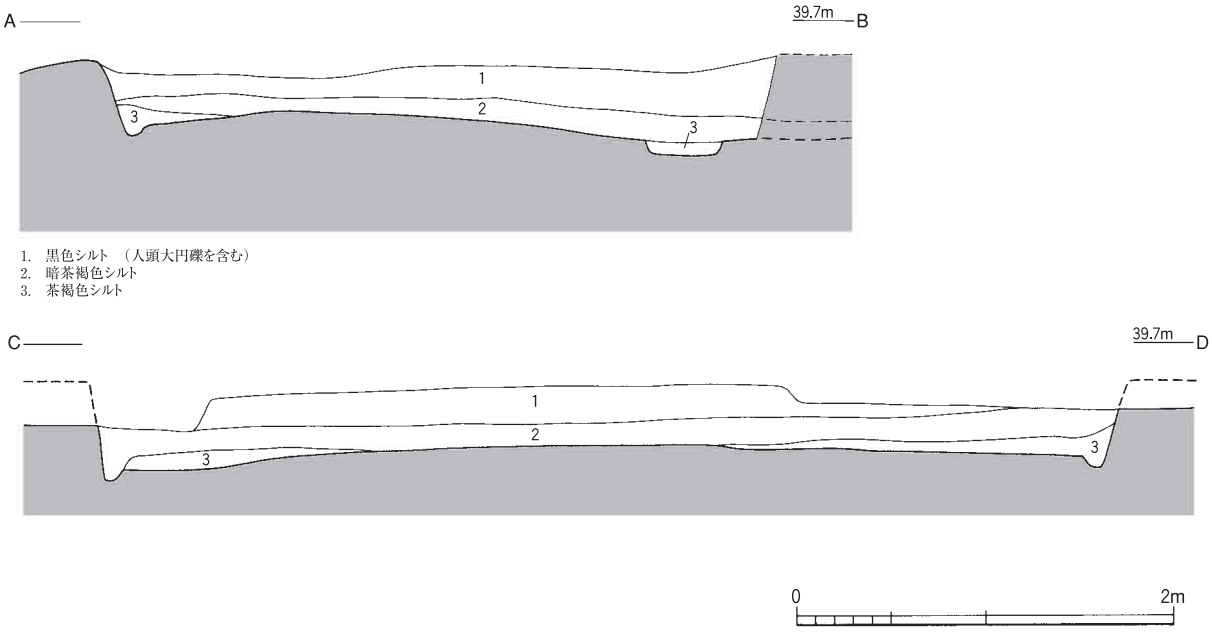
図版３

S = 1 : 500
X=-120,150
X=-120,200
Y=55,250
Y=55,300
P 4
発掘調査位置
加古川本流
町道 高岡河高線
いなみモータース
倉庫
車置場
車庫
木2
鉄1
鉄2
N

遺跡の位置

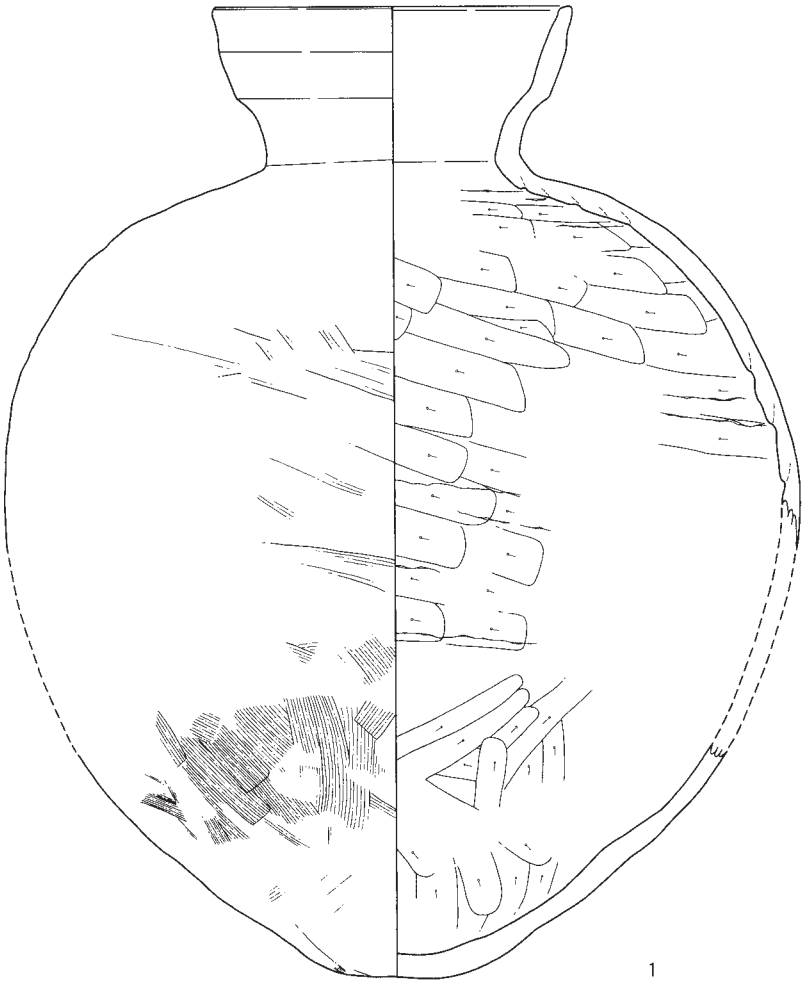


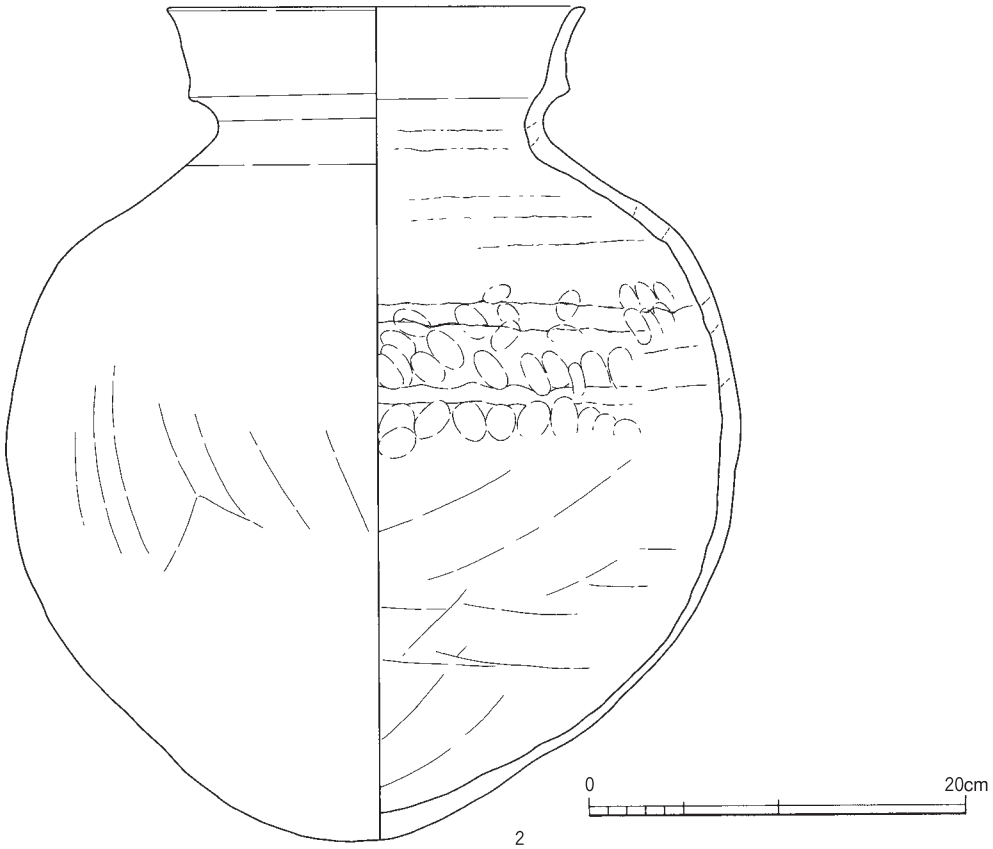
調査区西壁断面



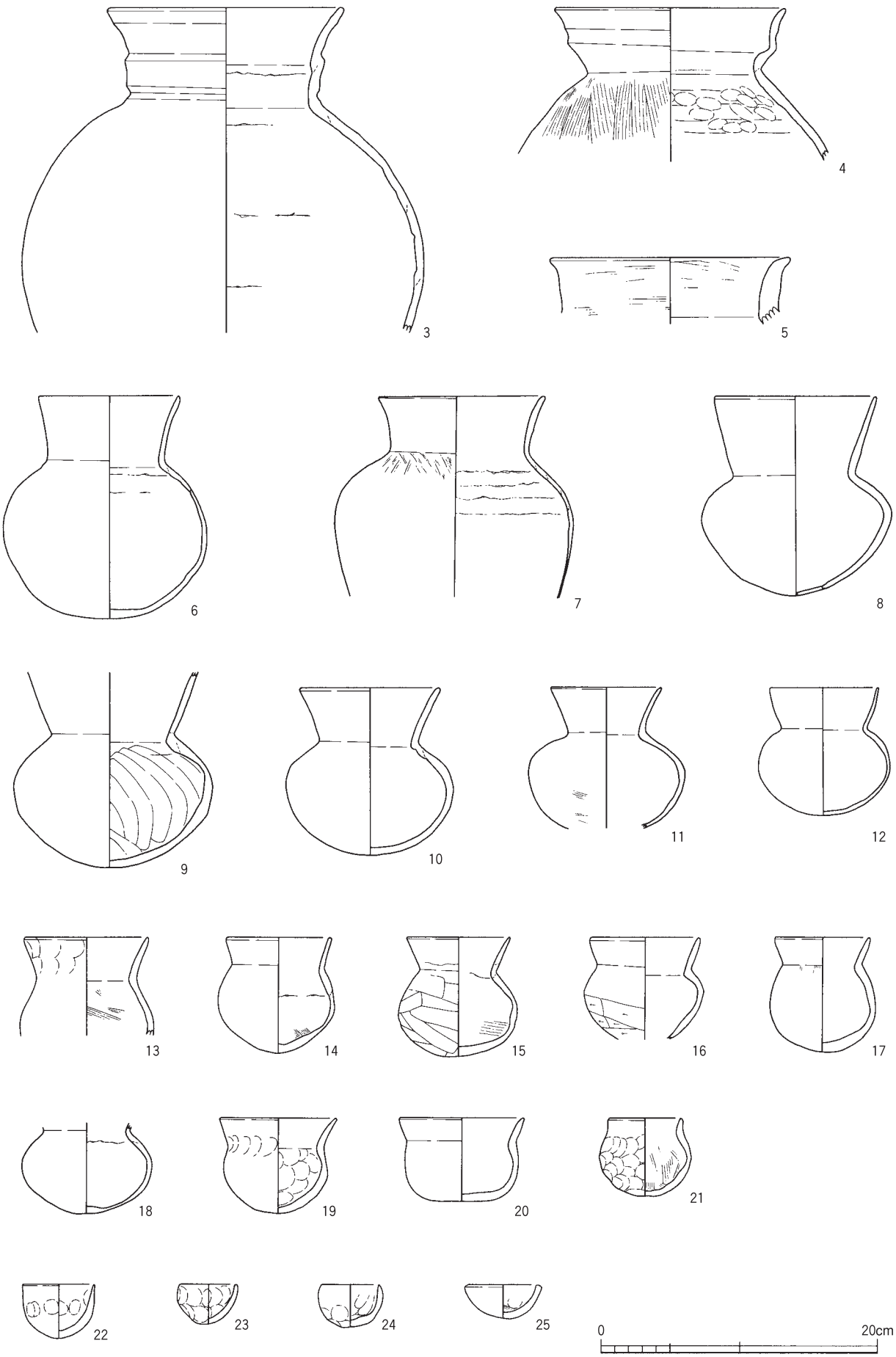
1. 黒色シルト　（人頭大円礫を含む）
2. 暗茶褐色シルト
3. 茶褐色シルト

遺構平面図・断面図

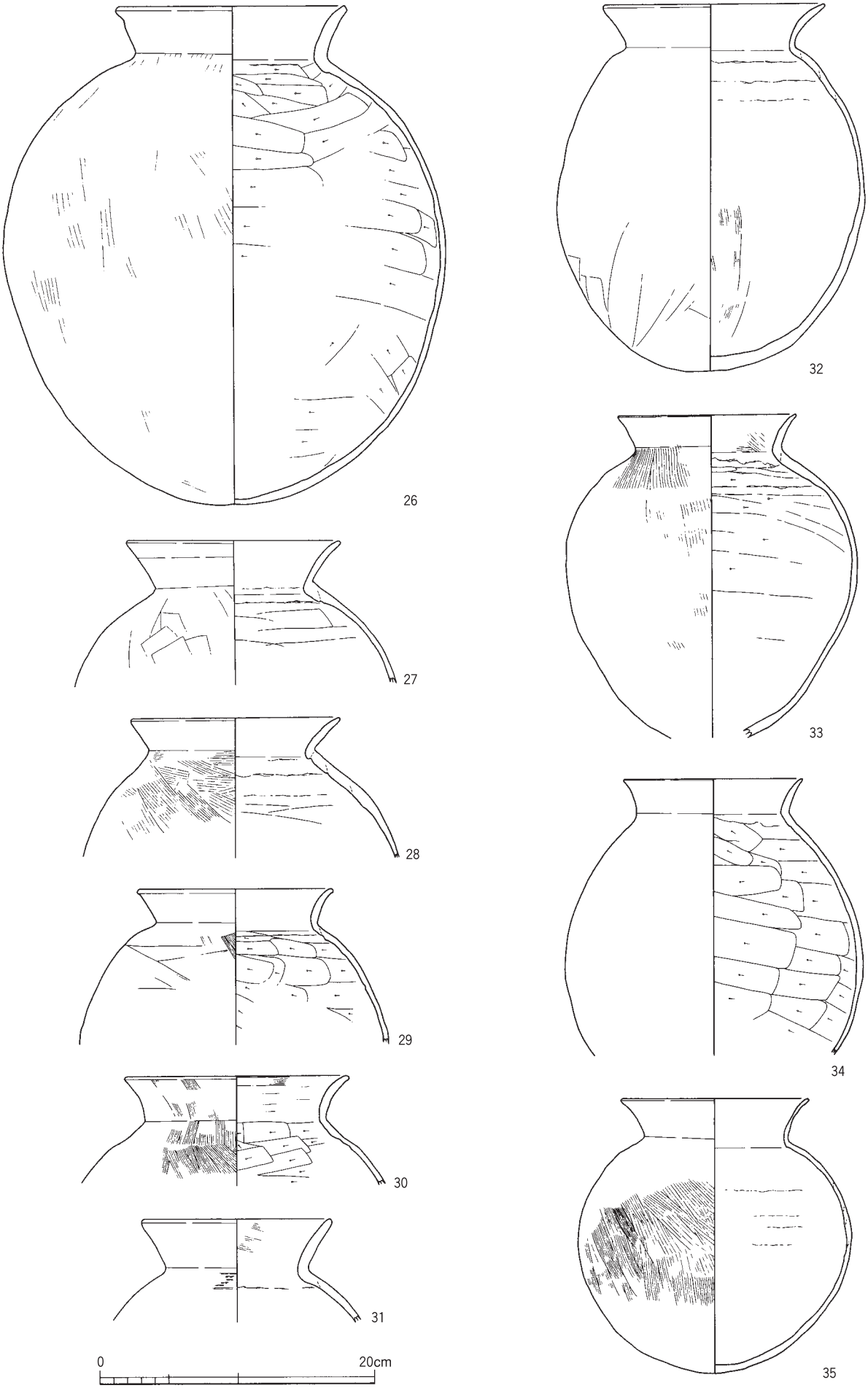




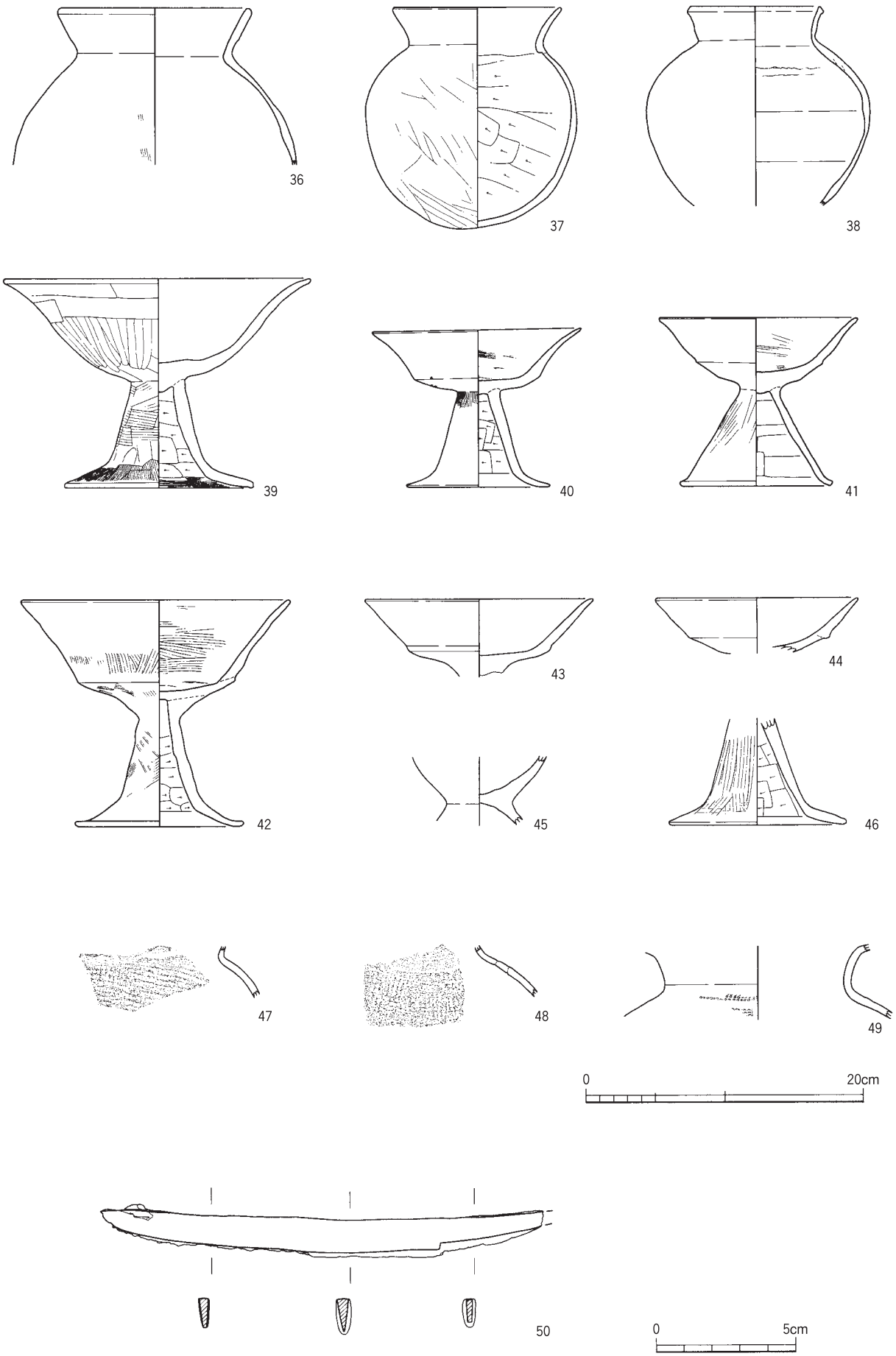
古墳時代の遺物１



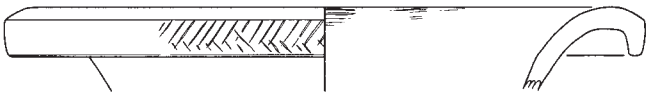
古墳時代の遺物２

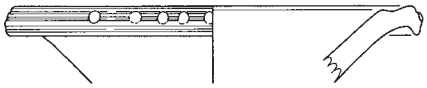


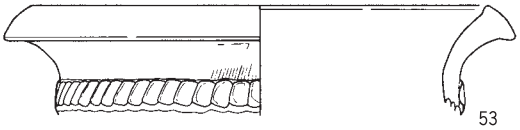
古墳時代の遺物３

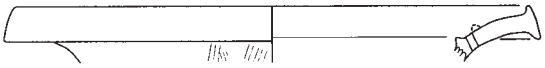


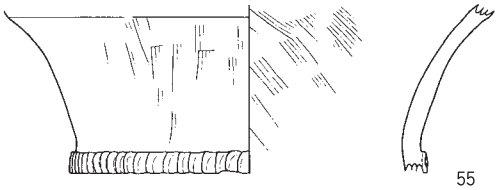
古墳時代の遺物４

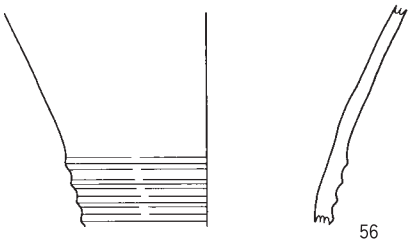

51

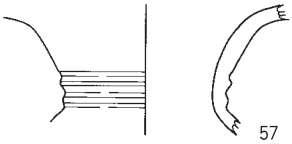

52


53

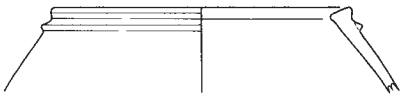

54

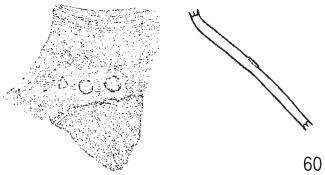

55


56


57

58


59

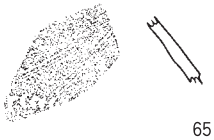

60

61

62

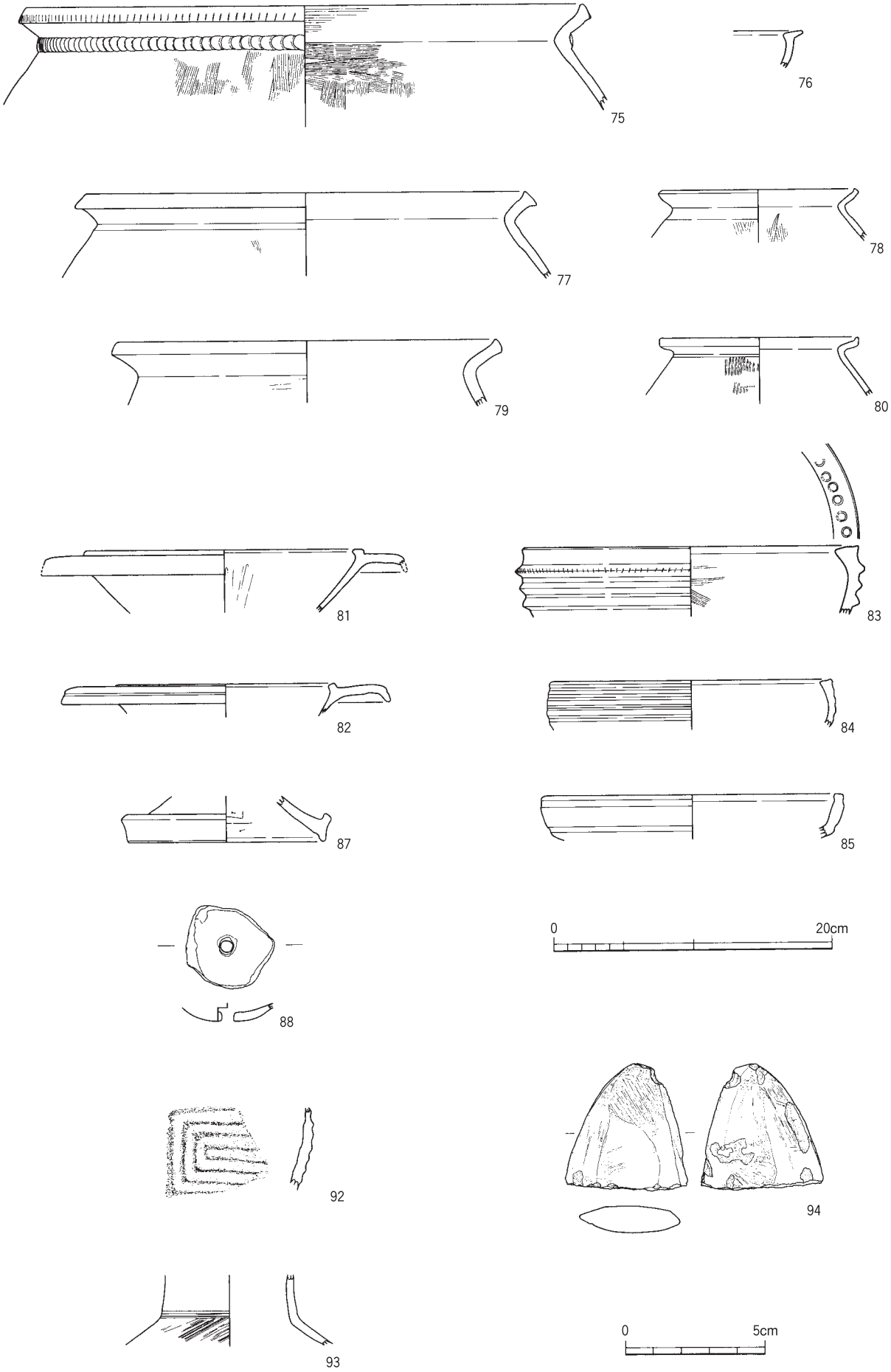
63

64


65

66

弥生時代の遺物１



弥生時代の遺物２

写　真　図　版

調査区遠景（北東から）

調査区近景（南西から）

確認調査①：調査状況

確認調査①：断面精査後

確認調査②重機掘削終了時（北東から）

確認調査②住居跡：SH01検出（北西から）

確認調査②住居跡：SH01検出状況（東から）

確認調査②調査区西壁断面

確認調査②住居跡：SH01埋土断面：ＡＢライン西側（１区）

確認調査②住居跡：SH01埋土断面：ＡＢライン東側（４区）

確認調査②住居跡：SH01埋土断面：ＣＤライン南側（３区）

確認調査②住居跡：SH01埋土断面：ＣＤライン北側（２区）

確認調査②住居跡：SH01完掘（南西から）

確認調査②住居跡：SH01完掘（西から）

確認調査②住居跡：SH01完掘（北から）

古墳時代の土器

1

2

3

4

5

6

古墳時代の遺物１

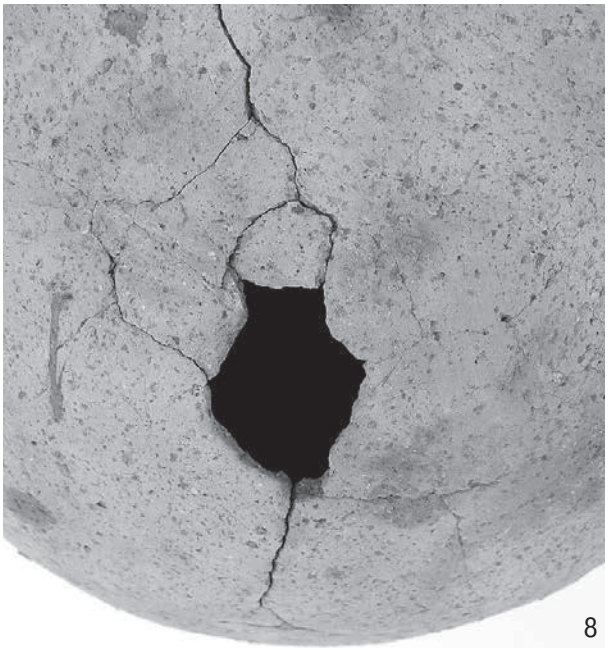
7

9

10

11

8


8

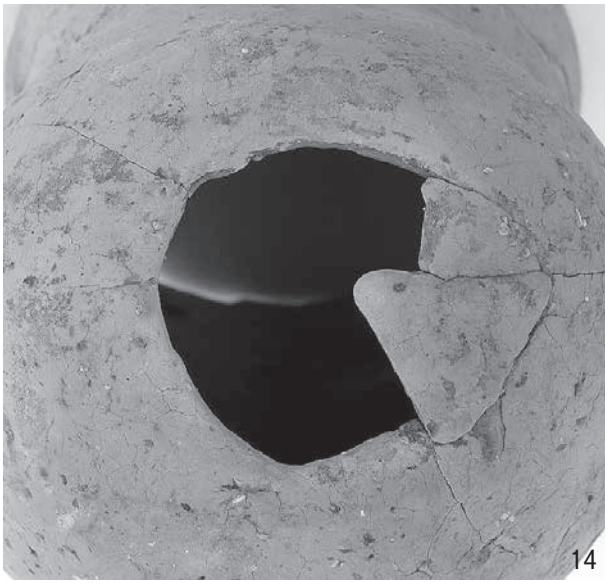
古墳時代の遺物２

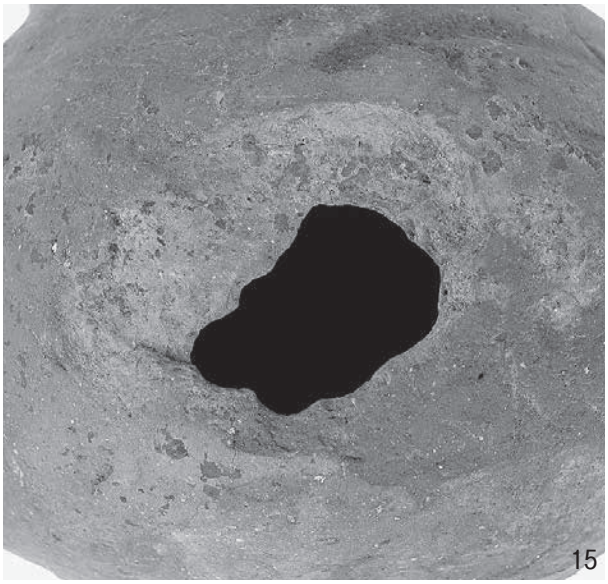
12

13

14

15


14


15

古墳時代の遺物３

16

17

18

19

20

21

古墳時代の遺物４

22

23

24

25

26

27

古墳時代の遺物５

28

31

29

32

30

33

古墳時代の遺物６

34

37

35

38

36

古墳時代の遺物７

39

40

42

41

44

46

古墳時代の遺物８

43

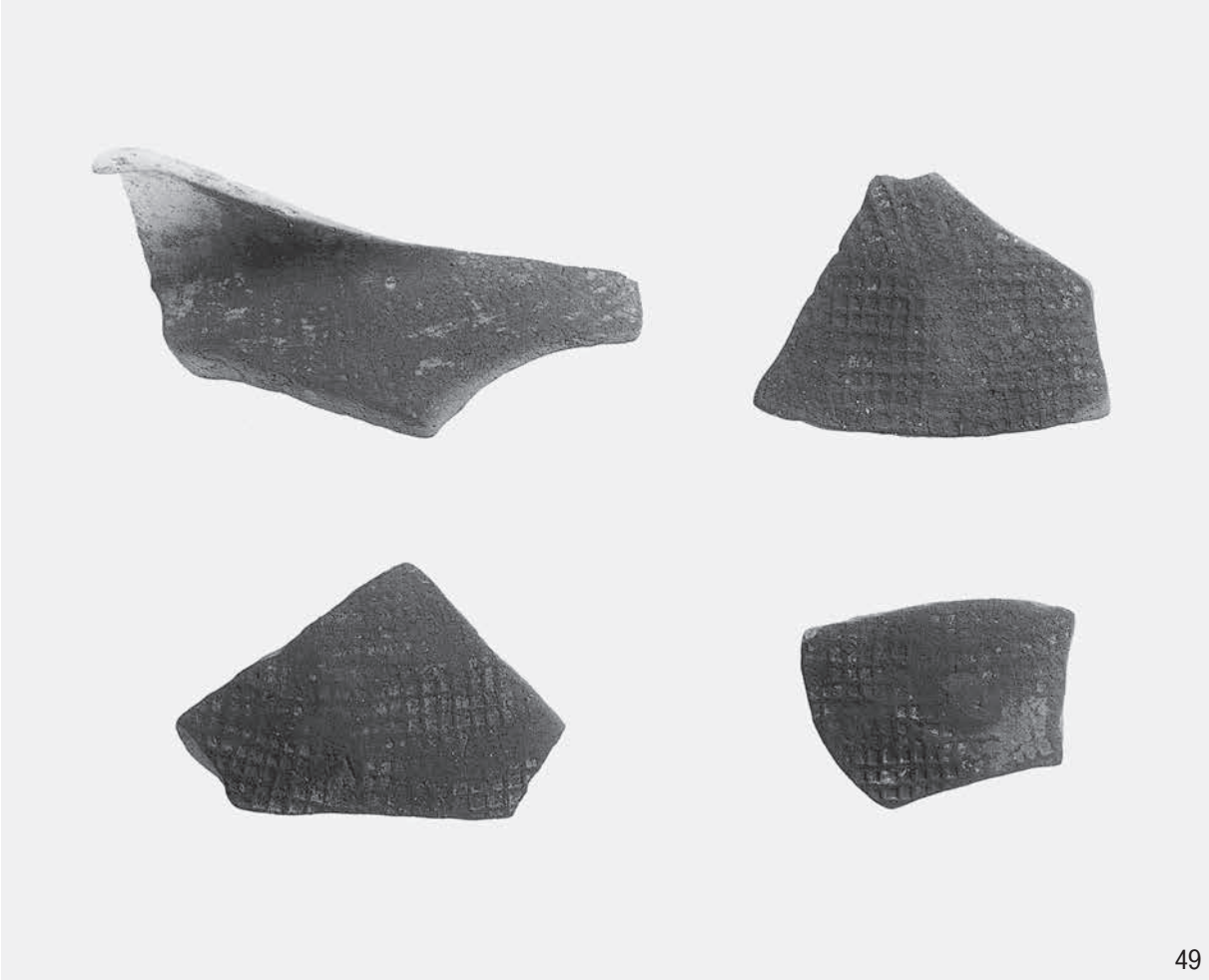
45

50

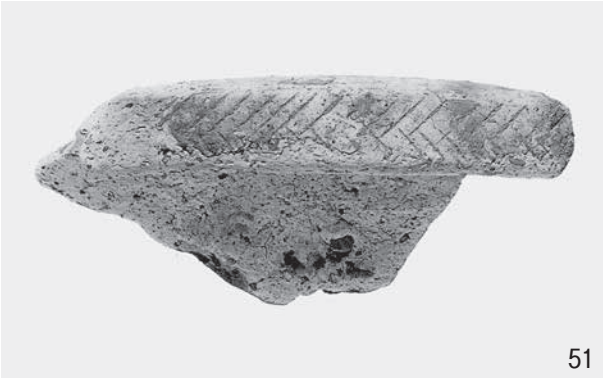
古墳時代の遺物９

47

48


49

古墳時代の遺物10


51

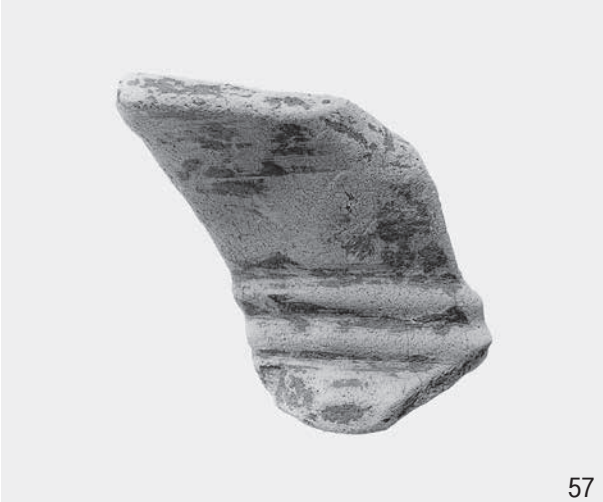
52

53

54

55

56


57

58

弥生時代の遺物 1

59

60

61

62

63

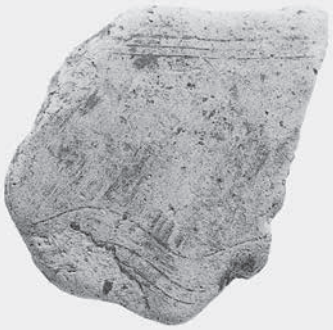
64

65

66

弥生時代の遺物２

67


68

69

70

71

72

73

74

弥生時代の遺物３

75

76

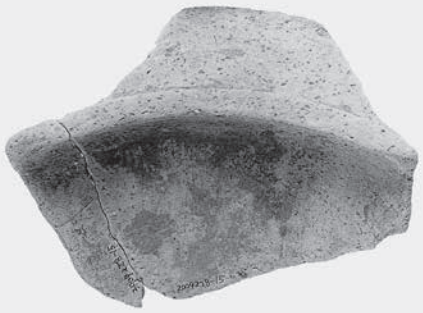
77

78

79

80

弥生時代の遺物４

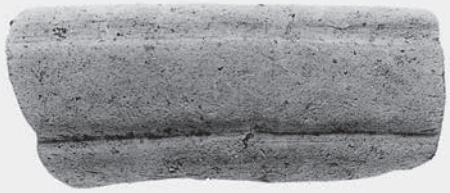

81

82

84

87

83


85

86

88

弥生時代の遺物５

89

90

91

92

93

94

弥生時代の遺物６

兵庫県文化財調査報告　第410冊

加 東 市

河 高 ・ 溝 ノ 越 遺 跡

道路等活力基盤(国道372号野村河高バイパス)整備事業に伴う発掘調査報告書

2011(平成23)年３月24日　発行

編　集　兵庫県立考古博物館
〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中１丁目１番１号
TEL 079-437-5589

発　行　兵庫県教育委員会
〒650-8567　神戸市中央区下山手通５丁目10番１号

印　刷　ウニスガ印刷株式会社
〒677-0053　兵庫県西脇市和布町39